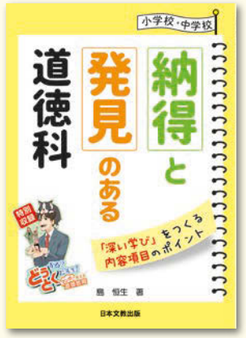
道徳と日文 これまでも、これからも

単行本のご案内

小学校・中学校

納得と発見のある道徳科

3月下旬発行予定



発達の段階に沿って，小学校・低学年から中学校までの「全内容項目のポイント」を解説し，「氷山の三層モデル」を使って，授業のねらいと発問を具体的に提案しています。

道徳科の課題を克服し，子どもたちにとって「納得」と「発見」のある授業を作っていきましょう！

島 恒生　著
定価　1,800円＋税
B5判　216ページ

道徳にチャレンジ

発売中

石黒 真愁子　著
定価　1,800円＋税
B5判　160ページ

考え議論する

新しい道徳科

実践事例集

発売中

鈴木　明雄
江川　登　　編著
定価　1,800円＋税
B5判　240ページ

道徳セミナー報告【大阪】 模擬授業で学ぶ!! 授業が深まるポイント

小学校・中学校で「特別の教科 道徳」の授業が行われる中，先生方のご興味・ご関心は「授業をどう深めるか」にあるのではないでしょうか。

そこで日本文教出版では，昨年 12 月 22 日に大阪にて道徳セミナーを開催し，120 名を超える先生にご参加いただきました。

●小学校・模擬授業「まどガラスと魚」
龍神 美和 先生　豊能町立東ときわ台小学校 教諭

●中学校・模擬授業「裏庭でのできごと」
福島 信也 先生　森ノ宮医療大学 教授

●講演「これからの道徳科授業」
島 恒生 先生　畿央大学大学院 教授

今回の模擬授業のポイントは「発達の段階の違い」でした。そのため，小学校，中学校とも同じ内容項目の教材を使用し，ねらいや発問などがどのように異なるか体感していただきました。模擬授業後には全体で振り返りも行いました。

講演では，模擬授業の振り返りを取り入れながら，「考え，議論する道徳」のポイントをお話しいただきました。質疑応答もとても活発に行われました。

アンケートより

模擬授業だったので，指導内容の系統性が考えやすかったです。後半の島先生との振り返りでさらに整理され，とてもよかったです。

どうとくのひろば No.25

日文教育資料［道徳］
令和2年（2020年）1月31日発行
編集・発行人　佐々木秀樹
発行所　日本文教出版株式会社
〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL：06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

デザイン：モスリングラフィック

CD33489

日本文教出版 株式会社
https://www.nichibun-g.co.jp/

大阪本社　〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261　FAX:06-6606-5171
東京本社　〒165-0026　東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611　FAX:03-3389-4618
九州支社　〒810-0022　福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696　FAX:092-521-3938
東海支社　〒461-0004　名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260　FAX:052-979-7261
北海道出張所　〒001-0909　札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201　FAX:011-764-0690

日文教育資料［道徳］

どうとくのひろば

No.25

こころのひろば
1.「考える力」を育む
［平井 伯昌］…… 2
2. 風呂敷に込められた日本の心＜後編＞
［久保村 正髙］…… 6

見てわかる！ 道徳
「国際理解，国際親善」（小学校）
「国際理解，国際貢献」（中学校）
「よりよく生きる喜び」
［越智 貢，上村 崇，奥田 秀巳］…… 8

実践事例【小学校】
新しい教材への取り組み
岸和田市小学校教育研究会道徳部の実践報告
［山田 真義］…… 10

実践事例【中学校】
本校の重点内容項目を意識した道徳授業
［菅原 路野］…… 12

こんなコト，聞いてみました！
心に残っている道徳の授業は？〈その2〉
［本田 正道，石川 勉］…… 14

地球の仲間からのメッセージ
先輩たち［長瀬 健二郎］…… 15

本資料は，一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り，配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報
詳しくはWebへ!
日文　検索

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

こころのひろば 1

「『考える力』を育む」

競泳日本代表監督
東洋大学教授
平井 伯昌（ひらい のりまさ）

プロフィール

1963年，東京都生まれ。
早稲田大学社会科学部を卒業後，東京スイミングセンターに入社。
2004年アテネオリンピック，2008年北京オリンピックの2大会連続で，北島康介選手に金メダル，中村礼子選手に銅メダルをもたらす。
2012年ロンドンオリンピックのリレー競技では，寺川綾，加藤ゆか，上田春佳選手が銅メダルを獲得。
2013年，東洋大学の法学部准教授および水泳部監督に就任。2017年より同大学教授となる。
2016年リオデジャネイロオリンピックでは，萩野公介選手が金メダル，星奈津美選手が銅メダルを獲得した。

【Hirai Racing Team ホームページ】
http://www.hirairacingteam.jp/

これまで多くのトップアスリートを育成し，現在は競泳日本代表監督を務める平井伯昌コーチに，指導者として心がけていることについてお話しいただきました。

―平井コーチは，ご自身が大学生の頃から指導をされるようになったそうですね。

はい。幼少時からずっと水泳をやってきて，大学3年生のときに水泳部のマネージャーになりました。私は泳ぐことが好きだったのですが，得意ではなかったので，「後輩に優秀な選手が入ってくるからお前がマネージャーをやれ」って言われて。そのときは，やはりとても悩みました。でも，中学生の頃からの友人が「形は違っても水泳に関われることは同じなんだから，頑張ってみたらどうだ」と言ってくれて，なんだか胸のつかえがとれた感じがしたんです。

実際，マネージャーをやってみたら意外に楽しくて。選手として一生懸命泳いでいるときは，横で泳いでいる人がどういう練習をしているのか，どういう考えで泳いでいるのかがわかりませんでした。でも，マネージャーという視点に変わると，物事が客観的に見えるようになったんです。最初はマネージャーになるのが嫌でしたが，やり始めたらどんどんのめり込んでしまい，ついには大手企業からの内定を断ってスイミングクラブのコーチになりました。

スイミングクラブに入ってすぐに新入社員の歓迎会があったのですが，そこで私はずうずうしくも「オリンピック選手を育てるために入ってきました」と自己紹介しました。先輩コーチは「お前，生意気だ」なんて怒ってしまいましたが，私は本当にオリンピック選手を育てるためにコーチという職業を選んだので，その後の仕事は結構楽しかったですし，結果的には天職だったのかもしれません。

―平井コーチは，指導者がただ教えるのではなく，選手自身の考えを引き出すことを大切にされているそうですが，その理由を教えてください。

それを心がけ始めたのは，私が北島康介選手を教え始めた30歳過ぎの頃です。もともと，指導者が教え込んでいくようなスタイルには限界を感じていました。指導者の主観，つまり選手から見ると客観的な考え方を先に言ってしまうと，選手の考えが指導者の考えに塗り替えられてしまうなと。

男子であれば高校2～3年くらい，女子であれば中学3年～高校1年くらいの頃には，自我がはっきりしてきます。しかしその頃に親や指導者との距離感が近いままだと，反発もするし，自分で考える力がなくなるんです。「自分はこうしたい，こうなりたい」と思っているのに，指導者から「今日のレースはこうだった」「やっぱり駄目だったじゃないか」などと言われ続けると，いつも指示待ちになってしまいます。だから私は，「レースが終わったらまず選手の話を聞こう」と決めて，コーチングの方法を変えていきました。すると，自分自身も選手も，ものすごく変わっていったんです。

例えばレースが終わったあと，「水に乗れた」という感覚的な言葉でもいいですし，「前半はこう思っていて，後半はこう頑張った」などでもかまいません。考えを言語化して人に伝えようとすると，自分の中でもきちんとまとまるんですよ。たとえ子どもでも，「あの練習をやってきたのはこういうことに生かすためだったんだ」「次はこういうことを目指していけばいいんだ」などと気づきやすくなると思います。

―選手の考えを引き出すときに心がけていることはありますか？

特に気をつけているのは，否定的な言葉を言わないようにすることですね。海外の指導法を見ていると，大してうまくない選手にも“Good job.”とか言ったりするんですよ。日本人は，よくなかった選手に「今のよかったよ」とは言えず，「なんだ，今のは」なんて否定的な言葉が先に出てしまうことが多いと思います。私自身，今でもそういった言葉が出てしまうことがあり反省していますが，極力言わないように，まずは選手の考えを問うように，いつも心がけています。

実際には，腹が立ってしまうこともあるんですよ。例えば，小学生の頃から私が教えていた子で，ロンドンオリンピックのリレーでメダルをとった選手がいるのですが，最初彼女は喋ることが苦手でした。「今日のレースはどうだった？」と聞いても，「最初から最後まで思い切り頑張りました」としか言わなかったんです。けれどそこで怒ってしまうと，子どもなりに「こう言ったら先生は喜んでくれるんだ」「先生はこういうことを期待しているんだ」と思ってしまいます。だから，どんな言葉が返ってきてもじっと我慢して，「最初は何を考えていた？」「最後はどうだった？」と突っ込んでいくようにしました。すると，「最初は落ち着いていこうと思って」「最後の50メートルは少し苦しかったので，先生の顔を思い出しながら息継ぎをしないで頑張りました」というように，だんだん言葉が出てくるようになったんですよね。

たとえ「こういうことに気づいてほしい」という思いがあっても，指導者がそれを言ったら「答え」になってしまいます。だから，「なるほど，そういう考えもあるね。でも，こんなふうに考えたらどう思う？」というように，「間」を置きつつ，選手自身の言葉を引き出すようにしています。

―自分自身で気づいていけば実感も伴いますし，自分の考えに自信がもてるかもしれないですね。

そうですね。ちょっと話が違うかもしれませんが，自信家だといわれる人って，「みんなと同じじゃないことに自信をもつ」という人が多いような気がするんです。「間違っているかもしれないけれど，俺はこうなんだ」という気持ちがあるというか。逆に自信がない人は，みんなと同じじゃないことに不安をもったりするんじゃないかと思います。みんなと違うところも含めて認めてあげれば，自信につながるかもしれませんね。

かといって，「個性」という言葉が独り歩きしてしまうのもよくないと私は思います。スイミングクラブ

東洋大学総合スポーツセンターにあるアリーナ棟。
国内公認50mプール，その他練習室8室を完備しています。

の教え子でも，一対一で話すとよくわかるのに大勢の中では全然話を聞かなかったり，周りに迷惑をかけながら「俺は間違っていない」と言い張ったりしてしまう子はいます。そういった，社会に受け入れられにくい個性をもつ子はやはり心配です。

ちょうど昨日の練習中にも「自分を強くもつことは大切だけれど，人に対してはそれを押し付けちゃ駄目だ。実力や自信があるだけではなくて，人に対して思いやりがあって優しくできる人が，一番すごいと思う」と話していたんですよ。

個性って，社会性のある個性でないといけないと思うんです。人に対して妥協できないのは駄目だと思うし，社会とは何かを考えたうえで，その中でどうやって自分というものを発揮していくかを考えなければいけない。道徳科の授業でも，ぜひそういったことについて考えてほしいですね。

―道徳科では，誰もがもっている弱さや醜さ，挫折や失敗を乗り越えながら，よりよく生きていくことについても考えていきます。水泳などのスポーツでも，そのようなことはありますか？

ありますね。例えば優秀な選手なら，子どもの頃は勢いで優勝したり，いい思いをしたりもします。でも長く競技を続けていれば，誰かに負けてしまったり，思うようにいかなかったりするときが来るんです。また，高校生くらいの年齢までは体の成長に伴って記録が伸びていっても，大学生くらいになると体の成長が止まって，「速くなるにはどのようにトレーニングしなければならないか」「どんなメンタルで自分の目標に臨まなければならないか」といったことを考えるときが来ます。そういうときに初めて競技の難しさがわかると思うし，「何のために努力するのか」「何のために続けるのか」ということを考える機会にもなると思います。

一度挫折や失敗を経験してからのほうが競技を続ける意義を深く考えられるし，そこでちゃんと努力した経験は，たとえ競技を辞めたとしてもその後の人生にしっかりと生きていきます。それはレベルの高いスポーツ選手でも同じで，何らかの壁にぶつかってからが本当のスポーツになるのではないでしょうか。

―選手がいろんな壁に立ち向かっていくために，何ができると思いますか？

私が今指導している日本の競泳チームでは，ここ20年ほど「個人競技ではなくチームとして戦おう」ということを心がけて，だんだん成績を伸ばしてきています。一人では苦しい練習でも，チームメイトと一緒にやっていると「当たり前」になってくるんです。「一生懸命頑張るのは当たり前なんだ」「難しい技術や高い目標に向かって挑戦するのは当たり前なんだ」という感覚が共有されていくと，悲壮感はなくなるし難しさもあまり感じなくなります。

そして，みんなの「当たり前にやるレベル」を上げていくと，自然と楽しくできるようになります。楽しくやるのが一番の目的ではないんですけれど，悲壮感をもちながらやると結果もよくならないような気がするんです。選手たちがきつい練習を笑顔でこなしながら，「先生，私たち頑張っていますよね！」「おう，頑張っているよな！」なんて明るくやり取りをしているときは，絶対によい結果が出ます。逆に，私が一方的に「おう，行くぞ！」と声をかけてばかりで，選手の反応がちっともないときなんかは，やはりうまくいきません。

―先ほど選手の皆さんと話していらっしゃいましたが，とても和やかな雰囲気でしたね。

1日の中で選手に接している時間は，その子たちの親よりも長いですからね。ただでさえ年齢も離れていますし，「思っていることを話しにくい」とか「こういった顔を見せないと怒られる」といったことを選手に思わせてしまったら，関係は長続きしません。だから，話しやすい雰囲気を作ることは練習をしていくうえでとても大切なことだと考えています。

ただ，お互いにリスペクトし合う関係であることはやはり必要だと思います。例えば，「親しき中にも礼儀あり」というように，ちゃんと敬語を使ってもらうこと。私自身，練習のときは選手に対しても丁寧語で説明するようにしていますし，罵倒したり汚い言葉を使ったりはしないようにしています。選手から指導者に対しても，指導者から選手に対してもリスペクトがあって，そのうえで親しみやすい関係が築ければいいんじゃないかなと思いますね。

―道徳科の授業の中で，子どもたちの考えに気づかされる，驚かされることがたくさんあるというのも，教師と子どもたちの間にリスペクトの関係があるということなんでしょうね。

そうだと思います。私も自分の年齢が上がるにつれて，指導する選手との年齢は離れていきますから，若者の柔軟な考え方にハッとさせられる経験がよくありますよ。「これはこうだと思っていたけれど全然違ったな」と気づかされたり，「ここまでしか考えていないだろう」と思っていた子が数か月の間にがらりと考え方を変えていて驚かされたり。決めつけちゃいけないなと，日々勉強させられますね。

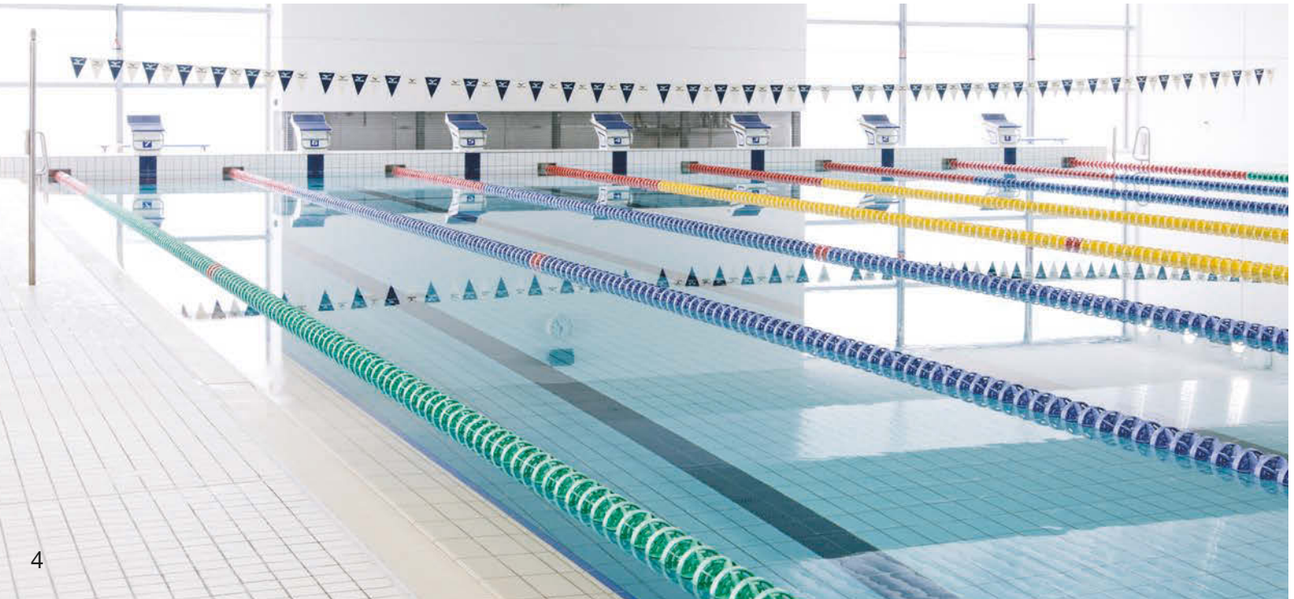
―指導者として，選手の何を育成していくことが大切だと思いますか？

それはいつも悩むところですが，「物事を自分で考える力」をつけていってほしいということは常に思っていますね。

もちろん私はコーチという仕事を選んでいるので，技術の指導はします。でも，技術指導というのは実は小さなことです。月並みな言い方ですが，コーチから言われることは最低限のことで，練習メニューなんてただの紙切れなんですよ。それに対して自分で考え，自分なりに工夫し努力していくことで，もっと濃い内容になるんだと思います。

苦しくなっても泳ぎの技術を乱さないだとか，どんなプレッシャーがかかっても自分に打ち勝つだとかいうことは，結局は自分自身に対して強く思わなければならないことなんです。「これだけは絶対に守ろう」という，誰かに決められたものではなく自分で考えて決めたルールのうえで頑張ることが，上達するヒントになるんじゃないかなと思います。

―まず「自分で考えること」が大切なんですね。本日はお忙しいところありがとうございました。今後のますますのご活躍を期待しています。



撮影協力／東洋大学

こころのひろば 2

「風呂敷に込められた日本の心」＜後編＞

日本風呂敷協会　事務局長

久保村 正髙（くぼむら まさたか）

日本風呂敷協会

風呂敷製造工程の白生地･織･染･問屋などの企業13社から構成される。

繰り返し使えて地球環境に優しく，機能的かつ優美な日本の伝統文化でもある風呂敷の活用を，あらゆる国のあらゆる世代に広めることを目的に，「風呂敷文化」に関するセミナーやラッピング教室の開催，「ふろしきデザインコンペ」への支援など，精力的に活動している。

【日本風呂敷協会ホームページ】
http://www.japan-furoshiki.jp/

前回に続き，久保村正髙さんに，風呂敷と日本文化の魅力やその情報発信について伺いました。

―日本風呂敷協会の活動について教えてください。

日本風呂敷協会では，風呂敷の歴史や魅力をお伝えするとともに，私たちが開発した包み方も紹介しています。エコバッグやプレゼントのラッピング，インテリアとしての使い方など……現時点で 50 種類くらいありますね。でも，基本的なことがわかれば，本来は誰でも編み出せるんですよ。「中の物を安全に運搬するために巻いて固定してみよう」とか，慣れてくれば自分で工夫できます。

開発した包み方は，雑誌や本を作って紹介しています。結び方紹介を中心に，風呂敷の歴史も書いてあります。また，いざというときに頭巾やマスク代わりにしたり，結んで長くしてロープ代わりにしたりといった，防災グッズとしての活用方法を紹介する本も作りました。

①

②

③

①②　おしゃれな包み方をたくさんの写真で紹介。英語版もあります。
③　災害時の活用方法を紹介。　〈各 280 円（税抜）〉

東京 2020 のロゴが入った風呂敷も。

―学校などでも，風呂敷のワークショップをされているそうですね。

はい。「日本の伝統文化のよさを理解し，生活の中で生かしていただきたい」という思いで，全国に赴いています。防災グッズとしての活用方法をお教えすることもありますし，最近特に増えてきたのが，「留学生に日本の文化を教えてほしい」「学校の授業で日本の伝統文化を扱うので，教えに来てほしい」などのご依頼です。京都に来た修学旅行生への講習をご依頼いただくことも多いですね。

講習をすると，まず風呂敷はいろいろな形に変化する，さまざまな場で活用できる，ということに驚いてもらえます。結ぶことに関してちょっと苦労はありますが，「風呂敷ってこんなものまで包めるんだ！」というお声はいただけますね。

それから，布って柔らかいので，子どもたちの笑顔が見られる素材なんですよ。そこに「結ぶ」という動作が入ってきますので，意外と退屈しないでやってもらえます。ですから，まだまだ教えられることがたくさんあるなと感じています。

学校から要請をいただいたら一回目は私が子どもたちに教えますが，その後はぜひ先生から子どもたちに広めていただきたいと思っています。教え方は先生のほうが絶対にお上手ですから，まずは先生にレクチャーしますね。使う風呂敷も，一回目に使ったものをそのまま寄贈して，二回目以降もそれを使っていただくことが多いです。そうして，子どもたちが徐々に日本の文化になじんでいけばいいなと思っています。

―風呂敷のデザインを学生から募る「ふろしきデザインコンペ」も毎年開催されているとか。

そうなんです。長年風呂敷を扱っていると，どうしても定番の形ができあがってしまうというか，新しいことへの挑戦が難しくて。だから，学生さんからアイデアをいただいているんです。

例えば，子どもの英語学習用に，動物の絵と一緒に名前が英語で書いてあるデザインだとか。「こんな風呂敷があったら楽しいと思う」と案を送り続けてくださる熱心な方や，コンペをきっかけに風呂敷の世界に入った方もいます。

ただ，現状は厳しくもあります。現在，私は大学にも教えに行っていますが，結び方を教えてもまったく結べない学生さんが 20 人中 3 人くらいはいます。「広げてください，結んでください」と言っても，動作ができないんです。風呂敷を使ったことのある人は，20 人中 1 ～ 2 人くらい。バッグのほうが便利ですから当たり前だと思います。形のあるものに詰めたほうがずっと楽ですし。それが実情です。

でもよくよく考えると，風呂敷って奥が深くって意外とおもしろい。自分なりの使い方ができるという楽しさがあるので。ちょっと知っておけば，いざというとき役に立ちますし。もちろん不便さはありますけれどね。

バッグは入れる物によっていくつも必要になりますが，風呂敷はたった一枚。使わないときは折り畳んでしまっておけますし，大きめの風呂敷を持っていれば，大抵の物は包めます。また，物を包んで運搬する道具なので非常に丈夫にできていて，長く使っていただけます。だから売れないのかもしれないんですが（笑）。私は，通勤にいつも風呂敷を使っています。

―これからの風呂敷文化に思うことはなんですか。

海外で「日本ってどんな国？」と聞かれたら，風呂敷で説明するのが一番手っ取り早いと思います。一枚で四角い物も瓶も包めて，ちょっとしたバンダナ代わりにもなって，いろんな形で使えるというのは，海外ではあまりないと思うんです。季節に合わせて楽しめること，シンプルモダンな形，風流を愛するゆとり。これらは風呂敷がもち合わせている大きな魅力で，日本人としての誇りです。便利になるのも新しいものが生まれるのも，もちろん素晴らしいことですが，それで風呂敷のよさがなくなるのはもったいないし，悲しいです。そういったことを，一人でも多くの方にわかっていただけたらいいなと思います。

―私たちも風呂敷文化を後世に伝えていけるようになりたいと思います。
本日は貴重なお話をありがとうございました。

日本文教出版の教科書でも
風呂敷を扱った教材を掲載しています。

●『小学どうとく　生きる力 3』
P.34 ～ 37「ふろしき」
●『中学道徳　あすを生きる 2』
P.154 ～ 159「包む」

撮影協力／宮井株式会社

第12回 見てわかる！道徳

「国際理解，国際親善」（小学校）
「国際理解，国際貢献」（中学校）
「よりよく生きる喜び」

監修：桃山学院教育大学　教授　越智 貢
共著：福山平成大学　教授　上村 崇
富山国際大学　講師　奥田 秀巳

国際親善と国際貢献

国際親善や国際貢献と言えば，国家と国家が交流するといった印象を受けるかもしれません。しかし，国際親善や国際貢献は必ずしも政治や外交だけの問題ではありません。もしそのように考えるなら，かえって真の国際親善や国際貢献が阻害されることにもなりかねないのです。

今年，日本で開催されるオリンピックやパラリンピックがそのよい例でしょう。私たちは国家や政治を離れて個人として戦う選手たちに声援を送ります。目の前で繰り広げられる選手たちの活躍をたたえるのは，彼らが自分の限界を超えてさらなる高みに挑もうとしている姿に感動を覚えるからです。その感動に，選手たちの国籍や肌の色が関わることはありません。

しかし，オリンピックは国家の威信をかけた戦いの場とみなされたり，政治的な問題と結びつけられたりすることも珍しくありません。その結果，かつて，ある国や地域の競技選手たちがオリンピックに参加できないという事態も生じたのです。私たちは，オリンピック憲章が，スポーツを通して相互理解を求め，平和な社会の推進を目標にしていることを忘れてはなりません。勝利者の国の国旗を掲げても，それは決して国家をたたえているわけではありません。選手たちは，ある国家に所属する多くの選手たちの代表ではあっても，国家の威信を担う人々ではないのです。

国際理解

国際親善や国際貢献を阻害するのは，それだけにとどまりません。

競技大会以外にも，外国の人たちと接する多くの機会があります。日常生活の中で外国人観光客を目にすることも多くなりましたし，インターネットを利用して世界中の人々とコミュニケーションをとるなど，国境を越えた人々の交流も盛んになっています。それどころか，実際，現代の日本社会にはたくさんの外国の人々が暮らしています。そして，彼らを排除しようとする動きもないわけではありません。

外国の人々が集団で私たちの知らない言葉で話しているのを聞いたとき，私たちは違和感を抱くことがあります。外国の人々そのものに不安すら感じる人もいるでしょう。国際親善や国際貢献の壁はここにもあるようです。

不安だからといって，相手の存在を否定したり，排除したりしてしまうことが正しいはずはありません。むしろ見慣れない風習，自分たちとは違った価値観，見知らぬ人と出会ったときこそ，私たちの道徳を見直すチャンスだと捉えるべきでしょう。私たちが慣れ親しんでいる習慣や規則について，その理由や根拠を再考することが重要です。異なる価値観をもつ人々との交流は，自分たちの習慣や規則を再検討するよい機会になるからです。

文化と価値観

同じ価値観をもつ人々だけで交流することは，ある種の心地よさをもたらしますが，その心地よさは，その価値観を共有しない少数者を無視したり抑圧したりすることにより得られたものかもしれません。外国の人々に対する排斥運動は，そうした心地よさにとらわれ，自分たちと異なる価値観を認めることができない，私たちの弱さの表れであるとも言えるでしょう。

私たちが文化的な背景や価値観の異なる人たちとともに暮らし，よりよく生きるためには，これまでの私たちの価値観を見つめ直し，異なる価値観を認めようとする強さが必要なのです。

よりよく生きる道

私たちは，外国の人々やその文化に関心をもつことから始めるのがよいかもしれません。その際，日本の文化について外国の人々にも関心をもってもらい，理解してもらうことも大切でしょう。そのためには，私たち自身の文化についてさらに理解を深めておくことも必要です。こうした交流の中で，互いの文化を理解し，ともに暮らしていく基準を探っていくことができるのです。

私たちが地域や文化を越えて互いを理解することは，私たちがよりよく生きる道を考えるきっかけとなるはずです。そして，そのこと自体が国際理解や国際親善，国際貢献だともいえるでしょう。

このように，国際社会の中でよりよく生きる道は，国家間の政治の問題である以上に，異なった価値観をもつ人々と共生していく方法を，日々の暮らしのなかで模索することから始まるに違いないのです。

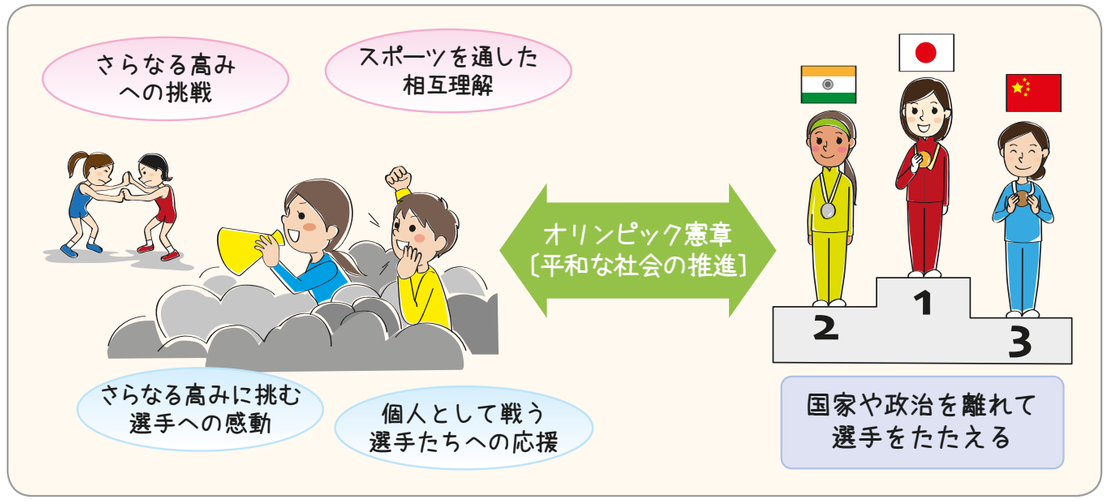


図１　オリンピックと国際親善，国際貢献

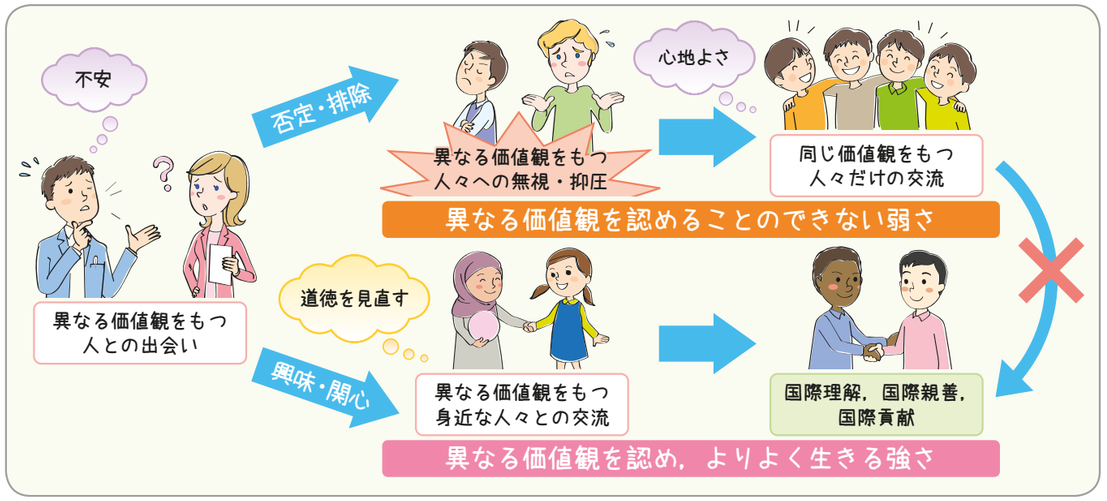


図２　国際理解，国際親善，国際貢献とよりよく生きる道

\実践事例/ 小学校

新しい教材への取り組み
―岸和田市小学校教育研究会道徳部の実践報告―

大阪府岸和田市立城東小学校　教諭　山田 真義

1 はじめに

本授業は，第 72 回大阪府小学校道徳教育研究会研究協議大会泉南大会で実践した授業であり，岸和田市小学校教育研究会道徳部（以下，小教研道徳部）の中で指導案検討を行ったものである。小教研道徳部では，新しい教材開発や授業作りを積極的に行っている。この「かぜのでんわ」も新しく教科書に掲載された教材であり，試行錯誤しながら検討してきた。以下は授業を行うにあたり大切にしてきたことである。

2 教材について

本教材のモデルとなった「風の電話」は，実際に岩手県大槌町に置かれており，大切な人に会えなくなった方々の心の支えになっている。教材の中でも，さまざまな動物が「かぜのでんわ」を頼って山を登ってくる。児童の心に訴えるものが大きい教材であるため，児童の素直な思いや感想を大切にしたい。また，絵本ではあるが実際の話がモデルになっていることを伝えることで，創作ではなく，自分に近い話として捉えさせたい。

3 道徳的価値について

「かぜのでんわ」の主題は「よりよく生きる」であり，内容項目は「D　よりよく生きる喜び」である。この道徳的価値を考えるにあたり，まずは，人間が誰しも弱さや苦しみを抱えていることを感じさせたい。そのうえで，それを乗り越えようとする強さも同時にもっていることに気づかせたい。また，自分にもその強さがあることを感じさせたい。

4 中心発問と補助発問について

本授業の中心発問は，「くまのおじいさんは，どんな願いをこめて『かぜのでんわ』を置いたのでしょう」とした。小教研道徳部の検討では，「とどいたんだ！みんなのおもいがとどいたんだ！」とくまのおじいさんが叫ぶ最後の場面を中心発問にすることも検討された。しかし，最後の場面で「みんなのおもい」を考えると，「会いたい」や「さみしい」などに意見が集中するのではないかと意見が出た。また，人間が苦しみを乗り越え，強く生きていく意志に児童が気づくのは難しいのではないかとも考えた。そこで，くまのおじいさんが「かぜのでんわ」に込めた願いを考えさせることで，「元気」や「心が楽」などの前向きな感情に気づかせることをねらおうと考えた。また，その前向きな感情が，自分の中から湧き出てくるものであることを児童に意識させるよう，より深めるための補助発問も設定した。「相手の声が聞こえない電話で話をして元気が出るのはなぜでしょう」と問うことで，電話をかけることを通して内的対話を行い前向きな感情が湧き出てくること，自分自身の中に苦しみを乗り越えようとする力があることに気づかせることとした。

展開例

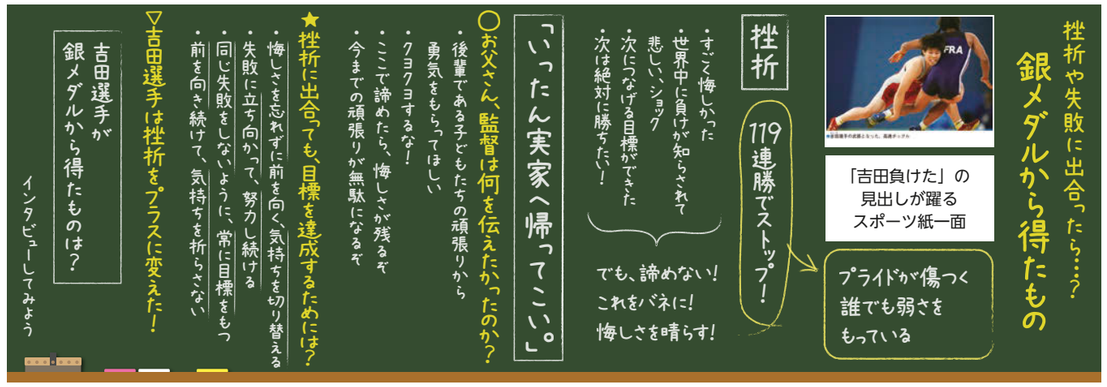
内容項目：D「よりよく生きる喜び」

主題名	よりよく生きる
教材名	かぜのでんわ（『小学道徳　生きる力 5』日本文教出版）
ねらい	「かぜのでんわ」を置いたくまのおじいさんの願いを考えることを通して，弱さを乗り越えようとする強さや気高さに気づき，よりよく生きようとする道徳的心情を育てる。

	学習活動（◎中心発問，○主な発問，・予想される児童の反応）	◇指導上の留意点
導入	**1 気持ちが暗くなるときがあることを想起させる。** **○ある子の心の中が 🙂→☹ になっています。この子にどんなことがあったのでしょう。** ・叱られた。 ・友達とけんかした。	◇気持ちが暗くなる具体的な場面が出るように例を挙げる。
	2 実際の「風の電話」について知る。	◇実際の「風の電話」の画像や本物のダイヤル式電話を見せることで，イメージをもたせる。
展開	**3 教材「かぜのでんわ」を読み，話し合う。** **○強く心に残ったところを発表しましょう。** ・次々に動物たちが電話をかけにくるところ。電話をしている人たちがかわいそう。 ・くまのおじいさんが空を見上げて叫んだところ。思いが届いてよかった。	◇印象に残った場面を聞きながら話を整理し，次の発問につなげる。
	○電話をしながらどんなことを考えているでしょう。 ・もう一度会いたい。　・悲しい。 ・帰ってきてほしい。　・感謝。	◇大切な人に会えなくなった人たちの思いに共感させる。
	◎くまのおじいさんは，どんな願いをこめて「かぜのでんわ」を置いたのでしょう。 ・話をさせてあげたい。 ・悲しみをなんとかしてあげたい。 ・少しでも元気を出してほしい。 ・気持ちを軽くしてあげたい。	◇考えを整理しやすいようにワークシートを用意する。
	・心で話ができている。 ・自分の心と話をしている。 ・向こうに相手がいると思うと安心する。 ・自分の気持ちを言ったら楽になる。	【補助発問】「相手の声が聞こえない電話で話をして元気が出るのはなぜでしょう。」 ◇発表や話し合いが進まないときはペアトークを行う。
	○落ち込んだけれど元気を出した経験はありますか。そのときどんなことを思いましたか。 ・マラソン大会で順位が下がって悲しかったけれど，今はまた頑張ろうと思っている。 ・この前おばあちゃんが死んでしまってすごく悲しかったけれど，今は少しずつだけど元気になっていると思う。	
終末	**4 学習を振り返る。** **○今日の学習で学んだことをまとめましょう。**	◇考えを整理しやすいようにワークシートを用意する。

本校の重点内容項目を意識した道徳授業

青森県平内町立西平内中学校　教諭　菅原 路野



1 本校の重点内容項目について

今年度，本校の学校教育目標をもとに，道徳教育における重点内容項目を教職員全員で再検討するという校内研修を実施した。育てたい生徒像を明確にして，道徳教育の目標を設定し，全教職員が共通理解，共通実践できるようにするためである。

まず，学校教育目標を具現化するために，私たち教職員が目指す生徒像を具体的に設定してみた。そして，それらの生徒像をもとに，関連深い内容項目の洗い出しを行った。

協議を進めていく中で，教職員間で共通する６つの内容項目が出てきた。そこで，その中から「A　希望と勇気，克己と強い意志」「B　思いやり，感謝」「C　よりよい学校生活，集団生活の充実」の３つを重点内容項目とし，さらに来年度からは，学期ごとに取り組む重点内容項目を設定して，校内で共通する明確な目標に向けて道徳教育を進めていきたいと考えた。

今回紹介する実践事例は，その３つの内容項目のうち，「A　希望と勇気，克己と強い意志」についてである。来年度はオリンピックイヤーだということもあり，吉田沙保里選手に関する教材で取り組んでみた。

2 ねらいとする価値について

内容項目「A　希望と勇気，克己と強い意志」の道徳的価値の中で，「困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げる」という部分を本時の中心価値とし，授業の流れを構想した。

私たちは目標を実現させていくうえで，さまざまな困難や失敗を経験することがあり，それはとてもつらく，苦しいことである。しかし，その困難や失敗から逃げずに，しっかりと向き合うことが重要だ。困難や失敗の体験を勇気をもって受け止め，その原因である自分の弱さと向き合い，打ち勝っていくことが，その目標の実現につながる。そして，そこから新たな，より高い目標に向かって頑張っていこう，よりよく生きていこうという気持ちが育まれると考えられる。

生徒の実態としても，失敗を「悪いこと」と捉えるがゆえ，失敗したことに正直に向き合えず隠す生徒や，見せないようにして自分を振り返らない生徒が見られる。

本時の教材の主人公である吉田沙保里選手が，挫折や失敗から何を得たのかについて考えていくことを通して，生徒自身がこれからの生活の中で挫折や失敗に出合ったときに，自分の弱さと向き合い，希望をもって努力していけるよう育てていきたい。

このようにして，全教職員で検討した重点内容項目を，道徳の時間を要として全教育活動の中で意識し，年間 35 時間ある道徳科の授業で計画的に取り組むことが，ひいては，学校教育目標の実現にもつながると考える。

展開例

内容項目：A「希望と勇気，克己と強い意志」

主題名　挫折や失敗に出合ったら…？

教材名　銀メダルから得たもの（『中学道徳　あすを生きる 3』日本文教出版）

ねらい　困難や失敗を乗り越えていくために，挫折や失敗から逃げずに，自分の弱さと向き合い，希望をもって努力し続ける道徳的実践意欲と態度を養う。

	学習活動（◎中心発問，○主な発問，・予想される生徒の反応）	◇指導上の留意点
導入	**1 挫折や失敗について考える。** **○挫折や失敗はしたい？　したくない？　なぜ？** ・恥ずかしいから，したくない。 ・頑張ったから，成功したい。 ・失敗は，悔しい。 ・したくないけれど，自分を成長させてくれる。 ・次の目標ができる。	◇様子を見て，「挫折や失敗から逃げたり，隠したりしたことはありますか。」などの補助発問も入れていく。
展開	**2 教材「銀メダルから得たもの」を読み，話し合う。** **○吉田選手は挫折をしていましたか。していたとしたらどの場面ですか。**	◇範読する前に，吉田選手にどのような印象をもっているか聞きながら，試合の様子の写真を貼り，吉田選手の強さについて確認する。 ◇連勝ストップ当時の新聞記事を貼る。
	○ 119 連勝でストップしたときの吉田選手はどんな気持ちだったでしょう。 ・悔しい。　・現実を受け入れられない。 ・これから先どうしたらいいのだろう。 ・北京オリンピックはもうダメだ。 ・きっと金メダルはとれない。	◇切り返し発問でゆさぶる。 「もう諦めてしまえばよいのではないですか。」
	○お父さんや監督は，吉田選手に何を伝えたかったのでしょう。 ・初心に戻れ！　・悔しさを忘れるな！ ・逃げるな！ ・今回の挫折に向き合え！	◇様子を見て，「あなたがお父さんや監督なら，吉田選手にどんな言葉をかけますか。」などの補助発問も入れていく。
	◎目標達成のためには，何が必要なのでしょう。 ・失敗や挫折と向き合うこと。 ・なぜ勝てなかったのか，原因を考えること。 ・希望をもっていた頃の気持ちに戻ること。	◇思いつくことをワークシートに書き出させる。
	○吉田選手はリオオリンピックで銀メダルに終わっても，「引退」の２文字を打ち消しました。「銀メダルから得たもの」として何を語ったか，発表してみましょう。 ・「私は今回，銀メダルを手にして，悔しかったからこそ，次の目標を見つけることができました。だから，私は引退しません！」	◇下線部に入る言葉を個人で考えさせたあと，インタビュー形式で，ペアで役割演技をさせる。
終末	**3 今日の学習から，感じたことや考えたことを振り返る。** **○挫折や失敗には，できたら出合いたくない…。しかし，もしこれから挫折や失敗に出合ったとき，どうしていけばよいでしょう。**	◇本時の学習を振り返らせ，これからどうしていけばよいかを考えさせる。 ◇記入後，個人で考えたことについて，ペアで共有させる。

こんなコト，聞いてみました！

今回のテーマ

心に残っている道徳の授業は？〈その2〉

ちょっと聞いてみたいギモンに経験をもとにお答えいただきました。
授業のヒントになったり，励みになったり。これからの道徳の授業に生かせる何かが見つかるかもしれません。

語る（吾を言う）から語り合いへ

元横浜市立桂小学校　校長　本田 正道

「私には，お母さんがいません。でも，おばあちゃんが私を育ててくれました。そのおばあちゃんに私はひどいことを言って…（涙）…ごめんなさいを言えないままお別れになってしまいました。今日の授業でそのことをずっと頭の中で…考えていて…心に残って…。」「私も今のＡさんの話を聴いていて，朝，お母さんとけんかをしてずっともやもやしていたけれど，自分が悪かったなと感じていて…（涙）…。」

小学校３年生の「語り」が展開後段に 15 分も続きました。その 15 分が，とても短く感じられました。この授業を見たのは 14 年も前のことですが，当時 40 代の先生と子どもとの真剣勝負の対話が，心に強く残っています。今，「主体的・対話的で深い学び」が求められています。まさしくこの授業は，それに値すると思っています。この授業を支えたものは，教師と子ども，子ども同士の信頼関係がしっかりしていたこと。「家族愛」で子どものどのような見方・考え方を見つめ語らせたかったのかがはっきりしていたということだと思います。道徳では，「語り合い」が大切だといわれています。「語る」とは，「吾を言う」ことです。吾を言うためには，聴いてくれる友達や先生との深い信頼関係が重要です。このクラスにはそれがありました。だから，「語り合う」ことができたのだと思います。

最近，グループワークや体験的活動を取り入れるなどの工夫がみられる道徳の授業が増えました。とてもよいことだと思いますが，あくまでこれらは指導の手立てに過ぎません。道徳の授業は，互いの深い信頼に基づいた，子どもの「生き方の学習」にしなくてはいけません。これからも「子どもが学ぶ」授業を見ていきたいと思います。

あの子が…！？ そんなうれしい驚きを！

高崎健康福祉大学　特任教授　石川 勉

20 代の頃，詩人・宮澤章二氏の講演を聞いた。宮澤氏が電車の中で女子高校生から優しいうそと一緒に座席を譲られるというお話である。女子高校生から席を譲られ，「次の駅で降りますから」と言う宮澤氏に，彼女は「私も…」と座席を譲る。お礼を言い，宮澤氏は次の駅で降車する。しかし，彼女の優しいうそが心に響き，宮澤氏はホームで後ろを振り返ることができなかった。それは，彼女が降車してこないことがわかるからだという内容である。

行為の意味，「思い」と「思いやり」は違う。それを感じられる心豊かな人になってほしいと，私はその内容の教材で授業をした。

その頃は，校内暴力の嵐が吹き荒れていた時代であった。すると，（あの子が…！？）と思うようなやんちゃな生徒が，「思っていても行動に移すことは難しいよ」と発言した。彼には豊かな感性があったのだ。そのときの「エッ！」というううれしい驚きが忘れられない。授業力も指導方法も未熟であった私だが，そんな生徒とのやり取りは絶対に学級経営に役立っていたのではないかと，今思う。

若い先生方，道徳の授業を楽しんでください。子どもたちと教材を通して触れ合い，普段は見ることができない子どもたちのよさに気づいてください。（あの子が…！？）そんな感動の時間になってほしいものです。

イラスト／石川 勉

地球の仲間からのメッセージ

元大阪市天王寺動物園 園長　長瀬 健二郎

先輩たち

昨年２月，天王寺動物園から訃報が入りました。クロサイのトミーが息を引き取ったというのです。36 歳と高齢であり，闘病していることも聞いていましたので，よく頑張ったな，というのが第一印象でした。私が定年退職してから２年後には，トミーの姉さん女房だったサッチャンが亡くなっています。サッチャンは動物園の中で数少なくなった私の先輩でした。

サッチャンは 41 歳まで生きました。人に例えると 100 歳近くといってもよいでしょう。当時，日本の動物園でのクロサイの長寿記録としては第２位だったかと記憶しています。私は 1974 年（昭和 49 年）に奉職しましたが，サッチャンはその２年前に生まれています。そして定年退職するときも元気でいてくれました。当時の天王寺動物園はサッチャンのほかにもアジアゾウの春子やラニー博子，カバのナツコ，ライオンのレオ，と日本でも有数の高齢動物たちが飼われている動物園でした。あるとき，市役所全体の予算関連の会議の場で，市の幹部の一人から「天王寺動物園の動物はお年寄りばかりですね。」と揶揄されました。

▲元気だった頃のサッチャン

▲サッチャンの子どもで，イギリスの動物園へ婿入りしたサミー

その場での反論は控えましたが，「犬や猫などのペットと違って飼育が難しい野生動物をそれほど長生きさせているということは，あなた方が統括する市がもつ天王寺動物園は，それだけ高い飼育技術をもった優秀な動物園であることの証明です。それは誇るべきことであり，決して卑屈になることではないのですよ。」と心の中で叫んでいたことを思い出します。

退職以来，高齢だった動物たちも寄る年波に勝てず，歯が抜け落ちるように亡くなっていきました。寂しいことではありますが，嘆き悲しむことでもないと思っています。彼らは動物の飼育に関する有益な情報をたくさん残していってくれ，野生動物の飼育技術を高めることに大いに貢献してくれました。それだけではなく，特にトミーとサッチャンは４頭の子どもまで残していってくれました。子どもの中にはサミーという子のように，イギリスの動物園へ婿入りし，そこでトミーやサッチャンの孫を残してくれているものもいます。６年前に訪ねたとき，トミーは私のことをまだ覚えていてくれた様子で，とてもうれしく思いました。これから孫の数，そして子孫の数は増え続けていくことでしょう。そして，大阪で誕生した命を海外の動物園まで広め，クロサイという稀少種の命を，この地球上に永く残していくことに貢献してくれることと思います。